

熊本県内の生活困窮家庭と 被災した子どもたちの総合環境教育

活動地域  熊本県

つづける助成

3年目

実践

キャンプの参加者数 **32人**

体験活動の参加者数 **472人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **80%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による、

- 受入れ休止施設が多い中での体験活動受入れ先の確保
- 屋内での環境教育活動の実施方法

■工夫した点

- キャンプについては、予約や日程変更等について柔軟な対応ができる日帰りキャンプとした
- 屋内活動では、換気をし、アクリル板を設置し実施時間をずらして3密を避けた



リサイクルプラザでの紙すき体験

課題

生活困窮世帯、人間関係に困難を抱えた子どもたち、子どもたちの生活リズムをマネジメントできない親への支援が不足している。さらに熊本地震によるPTSDも加わっている。

目標

子どもたち、ひいてはその家庭の環境意識が向上して、環境保全に配慮した暮らしが家計を助ける一助になることを知るとともに、子どもたちが主体的に生きる力を身に付ける。

活動内容と成果

- 福岡市クリーンパーク臨海リサイクルプラザを訪問し、ごみ処理工程の説明を受けるとともに、雑紙をリサイクルしてハガキを作る紙すきを体験した。紙すき道具を使えば、不要になった物で有用な物を作れることを学んだ
- 環境保全型農業における植え付け・収穫を通して自分の思い通りにならない自然の奥深さを改めて知り、自然と共生することの難しさと大切さを学んだ
- エコな生活が家計を助けることを知り、主体的に実践するようになるとともにそれを保護者などに伝えるようになった



椎茸の駒打ち作業体験



「食べられる野草、雑草」についての学習

全助成期間の活動を振り返って

環境教育活動への参加が、環境意識のみならず生きる力の向上にも好影響を与えることがわかった。子どもたちは、環境保全の必要性や主体的に考え動くことの大切さなどを知り、大人も巻き込んで、意識や行動に変化がみられるようになった。日々の生活に追われて環境に配慮する余裕がない家庭の子どもたちについて、ベースにある子ども食堂の取組みと相まって、いわゆる「心の貧困」のさらなる緩和に繋がったと感じている。

〒865-0064
熊本県玉名市中1835-1
電話：0968-82-7585
E-mail：rupa@sound.ocn.ne.jp
HP：http://rupa26.wix.com/npo-rupa



今後の
展望

この3年間の環境教育活動への参加を通して、子どもたちの環境意識が向上し、主体的に考え行動する意欲がみられるようになった。課題を抱えた子どもたちの成長の歩みは決して速くないが、子どもたちの成長欲求に応え、子どもたちが本心から興味・関心を持つ活動プログラムを子どもたちと一緒に考えていきたい。